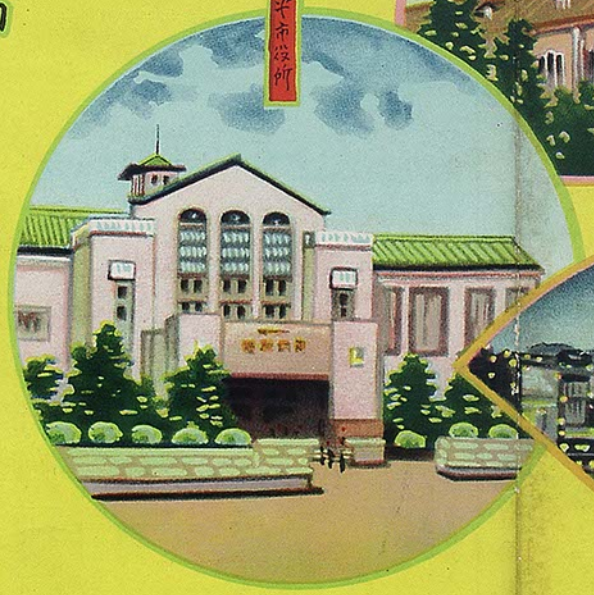
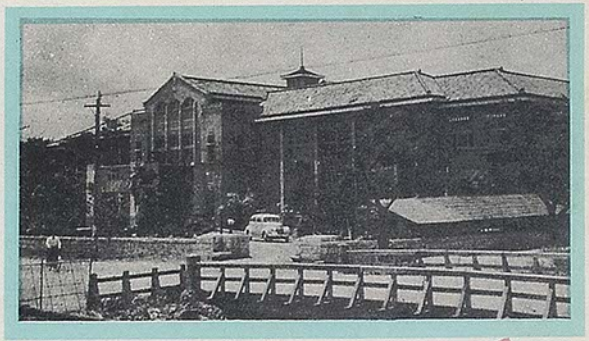
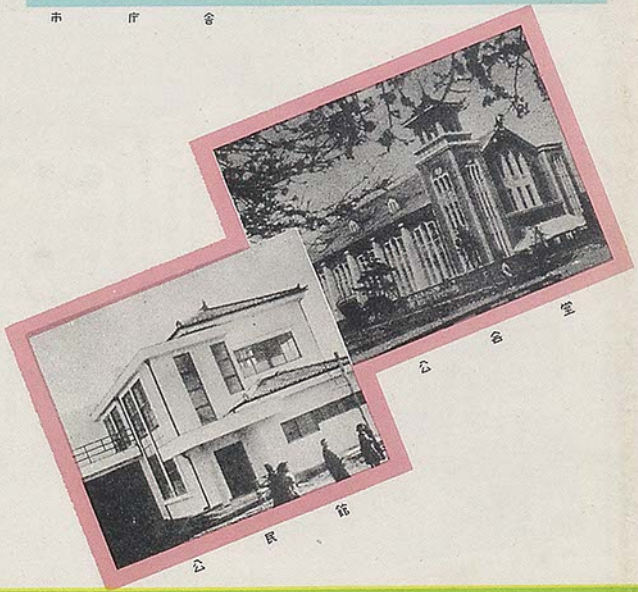
平市



〔京都祇園・觀光社作製〕
（電話㊀一九八〇）



市庁舎



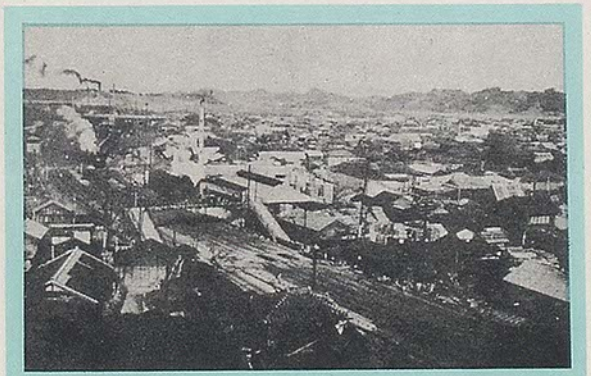
公会堂

公民館

繪に添へて ひとふで

平とは たゞちに平和そのもの、
常磐線最大の商工都平市は
東京に於ける高麗の如く山海景勝の
中心にあり農工水産の進展
観光の文化交通の發達に恵まれ
水戸仙台とともに古来著名の雄
都であり近時いよ〳〵善政と以て
向上飛躍の大都である
殊にその漁業と石炭の豊産は
天下に知られ又温泉と海水浴
場の豊富なことも一そう優美な
色彩である東京に隣接し
探勝のしをりとなる今日に於ける
平市の姿を後世への記録として
傳ふるを信ぜ筆者無上の光栄である

昭和新日本建設の年
吉田初三郎



平市全景

平市

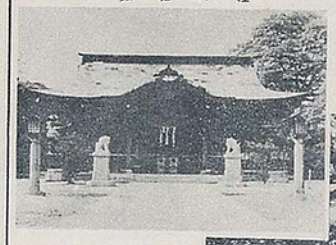
常磐線平驛
磐越東線起點

平市は福島縣の東南端に位し、東京を東北に距ること二百十三キ。氣候溫和、地味肥沃で山と海の資源に惠まれ、交通は四通八達の便あり、水戸と仙臺の中間にある一大集散地であるが、往時は寛治元年に岩城則道が管治してから代を重ねて五百十五年の慶長七年を迎え鳥居忠政と代つて平城が築かれ、その後は寶曆六年(約二百年前)安藤信成が平城主となつて以來、慶應四年の戊辰役まで百十餘年が同家の居城であつた。幕末開國の先覺者たる開老五萬石安藤信正の舊城下で明治二十二年自治制發布と同時に町制を施行し、昭和十二年六月一日隣村平窪村を合併して市制を施行、更に昭和二十五年四月一日飯野村を合併、續いて同年五月十五日神谷村を合併したので今や面積四六、一一平方粁に達し人口四萬三千八百を數え、地下には我國第三位の埋藏量八億トンを越ゆる常磐炭田を控え、太平洋に面する磐城七濱は海の幸に惠まれて、水産額は本縣の代表的な存在として驚異に値する。附近町村は近代的の生産工場多く、その主なるものに小名濱の日本水素工業、專賣局の電氣制鹽場、錦町に昊羽化學工業、四倉町に磐城セメント工場、湯本町に品川白煉瓦工場がある。

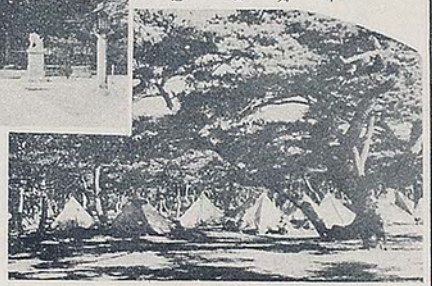
今後は地元の豊富な石炭と共に莫大な電力供給を豫期して工場誘致の輿論起り日平線十五萬ボルトの開設に次で將來は只見川水力發電を待望して、新潟との直通幹線道路による日本海沿岸との連絡の便を高め、小名濱商港の完備を待ち、隣接地と提携しながら産業上の大同團結を計つて商工大平市の實現を期待されている。

八幡神社

海岸倉四



子鍬倉神社



子鍬城趾

觀光案内

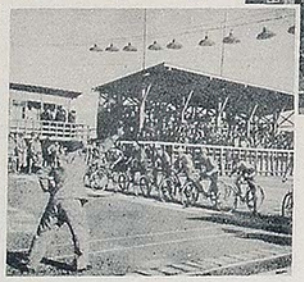
子鍬倉神社(驛から八百米・徒歩二十分)
驛の西方臺地にあり、廷喜式内の社で稲倉魂命を祀る平市の鎮守社例祭。四月十七、八兩日。

飯野八幡神社(驛から一粁・徒歩二十五分)
興田別命を祀る。慶長七年平城造築のとき今の地に遷座したと傳えられ、九月十四、五兩日の例祭には雄壯な古式流鏑馬、巫女舞等の神事が行われる。

松ケ岡公園(驛から一粁・徒歩二十分)
市の西端にある松ケ岡公園は慶長五年、領主岩城貞隆が外城造築の地に選んだ展望、廣い高臺に明治四十年を迎えて一萬三千坪の地域を開いた公園で、數百種の櫻樹、數千株の躑躅は東北第一の稱あり花時は園内に演舞場を設け、夜は數百の電飾、雪洞を點じて不夜城の觀を呈し、なお諸棟の施設を工夫して四季の訪客に興趣を添えたいと計畫中である。

丹後澤(驛から徒歩十五分)
慶長七年鳥居忠政が平城を築造した際の内壕の名殘りをとどめた池で、城は戊辰の役で灰燼に歸し、雜工事の築堤に遮んで人柱となつた宮波の土民丹後の名を記念して名づけたと傳えられる。今は綠蔭にボートが白鳥の如く浮び、秋は紅葉に染め出された水面に釣を垂れ、昔を忍ぶ城趾の夢のあとである。

磐城炭礦



磐城平

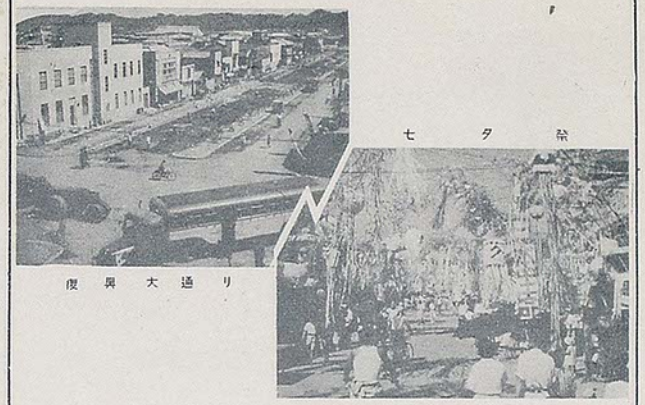
チャンガラ念佛(平市と郡内行事)
この踊りは石城地方だけの郷土色豊かな行事で貞享年間に名僧祐天上人が地方民に宗教心を植えつける便法として自ら振りつけて教導した和讃念佛で揃いの浴衣着て鉦太鼓の囃子に合せて踊りながら念佛を唱へるもので。盆の十三日から三日間、各町各村を巡り歩く特異な風習は地方名物の一つであろう。

磐城舞子(縣立公園大浦村仁井田・平草野・四倉からバスあり)
仁井田浦一帶を總稱する大平洋に面する弓獏の砂濱で、防風林の青松は白砂の上に相連り四粁に及ぶ。風光の明媚は關西に著名な舞子の濱に似るため此名がある。海水浴場として臨海學校の施設など完備し、附近のキャンプ村は青少年の體育訓練に好評あり、日本百景の一つで老松の枝態と風致は縣下第一の眺めであろう。

波立藥師(双葉郡久之濱町田之網四倉、久之濱から二粁バスあり)
渚に近い醫王山波立寺境内にある。大同元年徳一大師の開基で、天笠傳來の藥師如來坐像を本尊とし、外に武將十二身、仁王像など安置して山の赤井嶽と共に地方の二大藥師である。この邊は海岸に巨岩多く、寄岩列んで變化に富み、木奴美ケ浦と呼ばれ、鵜ケ淵の岩に渦まく怒濤は凄壯である。その昔西行法師が訪れて一首あり。

東路の木奴美ケ浦に一夜寢て　あすは拜まん波立の寺

鹽屋崎燈臺(平驛から十二粁・バス四十分)
漁港豊間町の東北にあり、海中約六百メートルの岬角をなす鹽屋崎は頂上まで五十メートル、その巖頂さらに高さ三十メートルの燈臺は最新の回轉閃光燈で八十萬燭光、毎二十秒に一閃光を放ち、光達距離二十浬に及び、太平洋上の眺望は雄大で、紺碧の海から寄せ來る白波は無數の岩礁を巡つて渦卷き、千變萬化の花模樣を畫する。



復興大通り

七夕祭

勿來の關（縣立公園　勿來驛から二粁・徒歩三十分）

この關は千五百餘年に白河關と共に陸奥地方の拓殖を計り東夷の防衛に設けられたもので、八幡太郎義家が奥州征討のおり、駒をとどめて、

吹く風を勿來の關と思へども
道もせに散る山櫻かな

と詠じ、古くから文人墨客の杖を曳く者が多い。海岸も風致よく、舊街道の松並木に沿うて汀に近く松樹連つて、白砂の丘上に月見草の點綴するも關趾の櫻と共に盡きぬ風情がある。

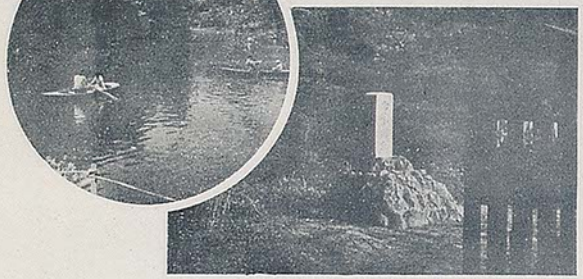
夏井川の溪谷（磐越東線江田驛川前驛下車）

「背戸峨廊」

この溪谷は磐越東線の江田、川前兩驛の間に展開する山と水の取り組む舞曲のように清流が大小無數の岩を巡り淵となり瀧となるところ山峡は十丈餘の斷崖をなし、新綠の頃は岩つつじ珍らしく、秋は滿山紅葉に彩られ、磐城耶馬溪の稱がある。近年特に有名になつた背戸峨廊は更に上流の溪谷で江田驛下車、江田川に沿う約四粁の其なお暗い閑寂の境をたどり奇岩、老瀑、深淵の應接に暇がない。

國寶　白水阿彌陀堂（石城郡內郷町白水字廣畑後　驛下車四粁・徒歩四〇分）

永暦元年（七百七十餘年前）陸奥の鎮守府將軍藤原清衡の妹で岩城氏の始祖岩城則道の室徳尼が亡夫の冥福を祈るため故郷平泉の中尊寺金色堂を模し造營したもので、內陣には木像阿彌陀三尊と二天王が安置され、明治時代から特別保護建造物に指定されていたが、文部省文化財保護委員會の審議により昭和二十七年四月更に國寶として指定された。



勿來關址

濃後畑

常磐の石炭

常磐炭田中最大の規模ある常磐岩礦の外に好間村に古河炭礦あり、勿來の大日本炭礦など大小無數の炭礦は產業日本の動力源として有望な將來を約束されている。同炭田の昭和二十六年度總出炭量は四百二十三萬九千三百餘トンであつた。

磐城七濱の漁況

磐城の漁港として名ある小名濱、江名、中の作、豊間、四倉などの魚獲はイワシ、サンマ、サバ、カツオ、イカ、マグロ、ブリの類で昭和二十六年度の水揚總額は千三百二十五萬貫に上つた。その加工品も深山出廻つている。

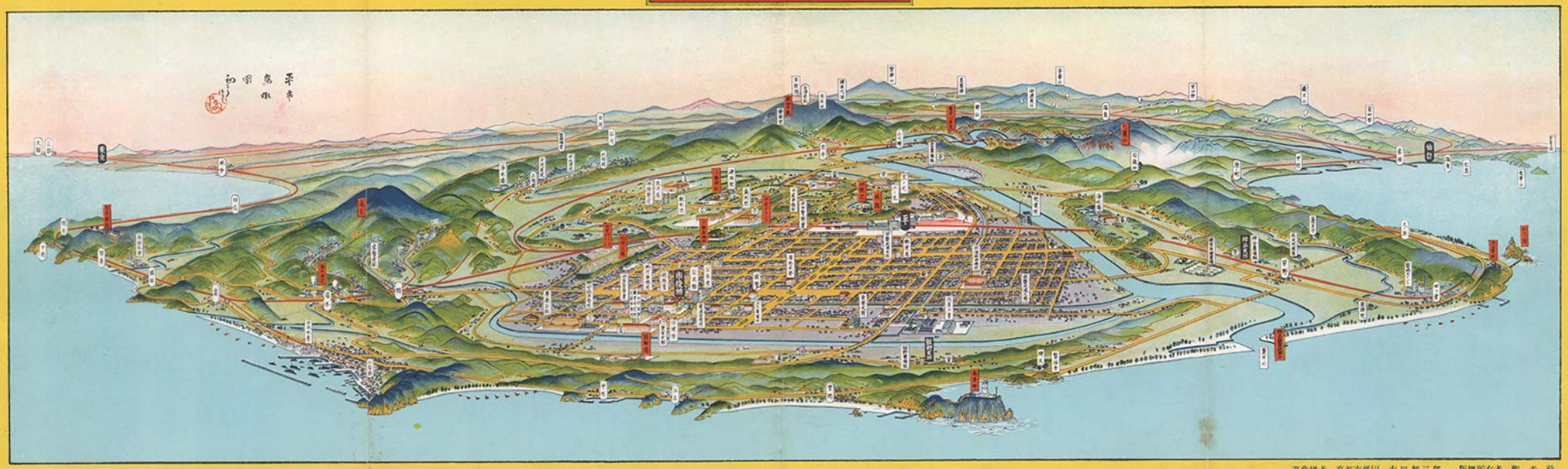
山と温泉と海水浴

近くの山で赤井嶽は中腹に著名な國伯井嶽樂師堂あり、大同元年徳一大師の開基にかかり難產除けと緣結びを願う男女が舊八月十七日の緣日に參詣する。二ッ箭山は双峰高く聳え箭を二本立てた山容のため此名がある。

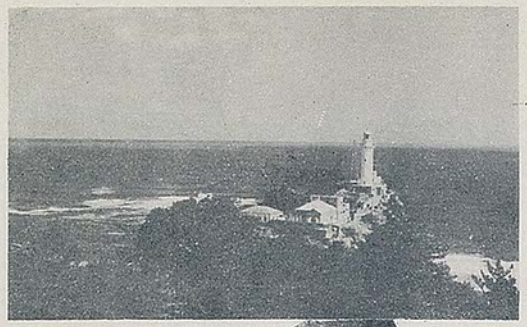
温泉は古來から名高い湯本温泉の外に鑛泉として知られる玉山、高野、小瀧、白鳥、萱手、鎧岡など主なるものである。

海水浴は小名濱、四倉、豊間、勿來、仁井田浦（新舞子）など、それぞれ特色が見られる。

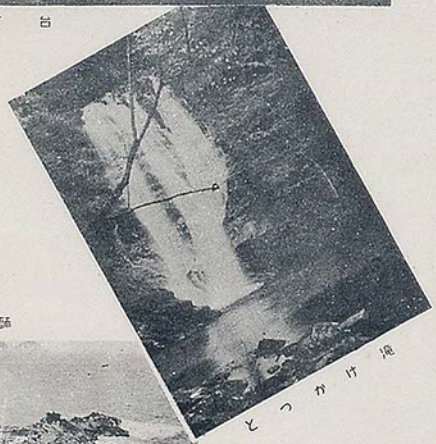
平壤鳥瞰圖



著作權者　京都市柳園　吉田初三郎　　版權所有者　觀光社

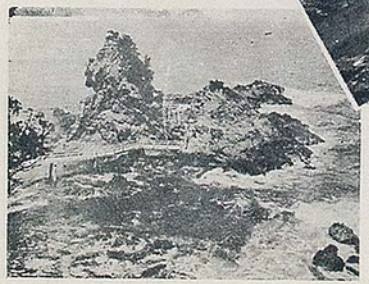


豊崎灯台

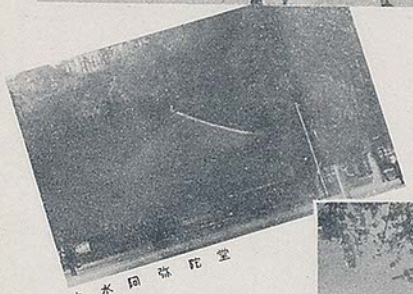


とっかけ滝

波立薬師



小名浜海水浴場

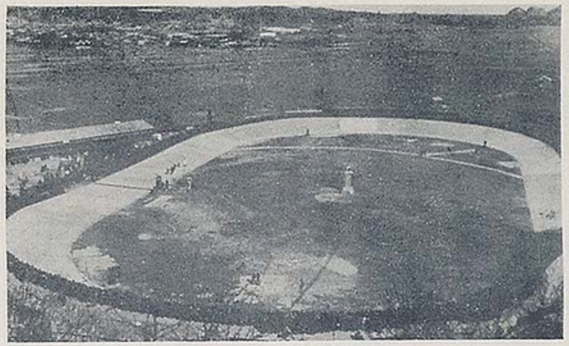


白水阿弥陀堂

松ケ岡公園

甲冑踊り

ジャンガラ踊り



平競輪場

旅館

甲陽館
とらや
松しま
末廣
山樂
憩
古里
届屋
やよひ館
二葉館
丸丹
金田
大村屋
鶴屋

炭屋
福住
水戸屋
小野新
開盛館
鎌田屋
小松屋
澤の湯
明快館
正月屋

割烹料理店

石川亭
一の井
ときわ
大貞

田毎
開花
月廼家
魚榮
のんき
谷口
松本樓
湖月
小鍛治
味鄕
美登利

レストラン食堂

江戸川
バール

不華
ときわや
ブラジル
富士食堂
平合館
玉壽し
ごけ屋
水戸屋

映画劇場

世界館
平館
聚樂館
ひかり座
民衆劇場

△土産品

たひら羊羹 松月堂
平五萬石 平製パン
たいら柚餅子 東京堂
常盤黒ダイヤ羊羹 市川パン
もち餡 ニコニコ餡本舗
炭豆 金世堂
いわきまんちう 開花亭

㊀かつを節 丸市屋
㊀かつをしほから 丸市屋
じやんがら人形 いづみや
常盤黒ダイヤ最中 市川パン
櫻羊羹 東京堂
尼子まんぢゅう 平製パン
松の月 松月堂

複製禁ず
發行所 平市
著作權者 吉田初三郎
版權所有者 京都祇園南鳥居前 阿讃庄太郎
編輯者 同所 伊藤政
印刷所 同所 觀光社